

日時：2022年8月8日 pm2:00~4:10

出席者：図書館の企画・地域支援担当職員3名、HITOTOWAのスタッフ3名、  
大好き！の会12名(守谷、手嶋、篠田、高橋、為我井、青木、米永、郡、清水、廣野、  
庄司、鈴木)

### 1.自己紹介

### 2.HITOTOWAより現状報告

6月に契約。広く対話して運営計画、最終計画の素案づくりを出す。市民参加型プログラムは、やってみないとわからないので、感想を聞きながら、計画に反映していきたい。まずは地域のことを理解していきたいので、この1ヶ月半ヒヤリングして勉強してきた。「大好き！の会」からの資料も参考にしたい。

### 3.「大好き！の会」からの提案について

(鈴木)4枚に渡る資料で記した通り、図書館所管の司書がいること、町田の他の図書館とネットワークでつながるといった最低限の基本が確保されることを求め、そのうえで魅力を増やすために市民として協力をしたい。まずこんなことができると提案を載せた方から。

(高橋)地域で小さな塾をしている。学校の統合もあり、地域の子供達にとって図書館はなくてはならないもの。調べ学習でも十分な資料と司書の必要性はますます高まる。市は、床面積を減らせと言っているらしいが、そのために書架を外せと言っているのか？書架を床から外して壁に取り付ける方法もあるのでは？そのほか、必要なら知恵を出したい。

(篠田)地域課題に取り組むアクションを図書館から創出できないか・・・という企画。資料に「岐阜市立図書館の子ども司書を養成し、自分の取材を図書館資料で深め、それを子どもラジオで話すという活動」を12年続けている事例を載せたが、町田でも吉成氏との関係で、手法を学び、自分が主体的に関わって実施することができそうだと感じたもの。そもそも、鶴川には浪江虔氏の私立図書館という宝物がある。もし、浪江氏が今、生きていたら、どの層に図書館活動が必要だと考えるか？と考えると、おそらく、小中高生の若者で、その読む力が圧倒的に弱いと指摘するのではないだろうか？そういう意味でも若者と一緒に図書館のあり方を考えることが大事では？鶴川にあるもの、魅力や価値をどう発掘し、利用するか。団地にある図書館は魅力的で、若者発想で高齢者と共に・・・という企画を作り上げていければ

(鈴木)現在換気の問題で全然使っていない書庫に手を加え、換気をよくして、きれいに整備し、テーブルと椅子を置いて使うことを提案する。交流スペース、お話し会などができる。図書館内の書架を減らさず、書庫と図書館の棟が取り壊される前の5、6年もの間交流スペースとして使うことができる。

(庄司)鶴川図書っこ応援隊として、子どもと図書館をつなげる活動をしている。2019年には、鶴川三小の授業の一貫で読み聞かせ、紙芝居の演じ方のワークショップを行い、図

書館まつりのお話し会に出演してもらったところ、お話し会離れしていた小学生が次にどっと来たことがあった。コロナになってからは紙芝居ワークショップを団地の集会所で続け、秋には植物遊びのワークショップをやる予定。団地の中にある図書館は商店街になくてはならない存在として考えられ、子供たちの図書につなげるワークショップにも団地集会所を無料で貸してもらうことができ、図書館をめぐる素晴らしいコミュニティになっている。

#### 4.意見交換

(鈴木) 市民協働型運営というものがどういうものを考えているか一番知りたい。どこかの市民団体に運営を任せるのか。市民や団体と図書館の方とで運営協議会ができるといういろいろ相談できるのでいいと思う。ただ、運営自体のノウハウは市民側にはないので、その辺りがどうなるかも知りたい。

(庄司) HITOTOWA さん(以降 H と称する)は、これまで、図書館の運営に関わる仕事はされてきたのか？ どういった事業をされてきているのか？

(H) 図書館の企画に関わる仕事は初めてです。地域のコミュニティ拠点ということで、法人や任意団体。これまで空き店舗の運営方法を考えたり、居宅介護事業所と地域のコミュニティ作りなどに関わってきたが、活動のプロデュースはせず、あくまで方法を一緒に考えることをしている。他の場所の事例で得たノウハウなどを紹介したりして、一緒に作っていくことを大切にしている。

(鈴木) 中川さんに伺いたい。H の方は市民のお話を聞いて活かしたいということだが、市の計画内容はどうなっているのか？ 書庫は図書館の面積に入っているのか？

(図書館) (以降「図」と称する)入っている。合わせて260㎡。H から書庫の書架を外してベンチを置く提案もあったが、図書館では、書庫に入って蕁麻疹が出たということもあり、ダニの発生も考えられ、清掃、改修のために業者に見積もりをとっているところ。今後予算要求していく予定。富岡さんには空調の工事は難しいと言われた。

鶴川図書館の利用者がこの数年大きく減っている現実があり、何らかの対応が必要。

(鈴木) 2017年の調査では、8館中一番小さい鶴川図書館の利用は、町田市で4位。40代男女の利用が一番多かった。

(図) 2021年では、7位になっている。2022年4月から7月までの4か月で見ると一番少なくなった。

(庄司) 今、子供だけでなく若者の読書離れがある中、町田市全体でも利用者は減っているか？

(中川) 減っている。コロナで減少したが、2020年度に比べ2021年度は開館日数が増えたので少し回復したが、金森は微減、鶴川は4割くらい減ってしまった。一方駅前図書館は、指定管理になって開館時間が増えたこともあり利用者が増加している。

(鈴木) 3割も開館時間が増えているので、単純に好調とは言えない。時間当たりの利用者数ではそれほどではないのでは？

(図) 現在鶴川図書館は「町田市5ヵ年計画22-26」の重点事業に入っている。効率的・効

果的な図書館サービスのアクションプランでも無くすとはいっておらず、代替機能を考えるとしている。

- (鈴木) 以前は代替機能という言葉だとなくなってしまう感じだが、少し変わっているのでは。
- (図) それはこれからのことで、5か年計画にのったというのは大きな前進。運営について皆さんの力をお借りしたい。市長から見ても議員から見ても地域から見ても魅力的な取り組みとしていきたい。
- (鈴木) 運営がどうなるのかが一番問題。
- (手嶋) 図書館を運営することは、市民協働では難しい。市民参画は可能と思うが、市民が運営はできない。八王子の例は、元々市民が関わっていたところに会計年度任用職員の司書を市が派遣している。
- (守谷) ①中川さんに質問：市として「市民協働」という言葉の定義づけはあるか？②Hに質問：会としては、フルスペックで残して欲しいと言ってきたが、Hでは継続する図書館機能を整理すると言っている。整理するというのは例えば「まちライブラリー」のようなもののイメージか？市の受託者への条件はあったか？
- (図) 市民協働の定義：市民協働推進課は、10年くらい前“話 輪 和”という3つの「わ」を出していた（注：町田市「協働による地域社会づくり」推進方針 2013年3月）。定義は広い。場所を貸すだけでも良いし、委託も含まれている。
- (鈴木) 生涯学習推進計画にも市民協働の推進を挙げているが、実際は市民ボランティアと変わらない。ボランティアでは、市民協働ではない。北区の例をどう思うか？”  
ボランティアや提案をしているが、図書館から完全に独立した存在。
- (図) 利用者の声を直接聴くという意味では良い取り組みだと認識している。図書館協議会のように町田市全体の図書館を考えるとときに特に良いのではないか。鶴川ではもっと市民が幅広く事業に参画してもらうことを想定している。八王子は司書がいるが、司書でなくても経験を積んだり勉強するなど研鑽を重ねれば質問に答えられるのではないか。
- (清水) 司書の専門性に対しての中川さんの見識がわからない。司書には司書としての責任と知識がある。司書でなくても質問に答えられるとおっしゃるが市民の話を聞く力というのは、司書としては当然だが、市の職員としても当然なことだと思う。
- (守谷) 現在の図書館サービスの基礎を築いた前川恒男さんは、のちに日野市の助役を務めた人だが、市の一般行政も図書館も同じだと言っている。行政の中核から目の届かない出先機関にこそ、きちんとした人を配置しなければいけない。それは、地域図書館にこそ、力のある信頼できる職員を配置しなければならないということと同じだと言っていた。例えば地域図書館で資料のことを聞かれても、その館に適切な資料がない場合が多い。そこで中央図書館の蔵書等にも知識があって、しっかりと中央図書館に繋げることができる職員が必要だ。そうでないと、市民は諦めて帰ってしまう。市民を諦めさせてはいけない。図書館の仕事というのがそういうものだということを理解してほしい。指定管理後の駅前図書館などは、そういう連携がどうなっているのか大いに心配だ。(郡) 3人の話を聞いて図書館が図書館であるためには司書が必要と自分も思う。カウンターで

の仕事だけでなく、次々入ってくる知的財産をてきぱきと処理しなくてはいけない。今、守谷さんや手嶋さんの力を借りることが出来ても、図書館は永続的にあり続けなければならない。鶴川図書館には、鶴川の特徴を特化して生き残りを図ることを考えたい。今の子どもたちは、デジタルでなんでも簡単に調べられるが、その情報を血肉とできる子は限られている。図書館に行って本を目で見て体を使って調べて、調べ方がわからないときに司書に尋ねて、力になる。

また、本に触れないと、言葉が育たないと思う。市民の声をくみ上げてほしい。

- (高橋) 郡さんの意見に全く賛成。同じ内容は、私の提案資料 P2 に書いてあるので見て欲しい。鶴川図書館存続に不利な情報だけを集めているが、図書館は書庫についてもやる気がないのではないか。図書館の存在意義は、今言われたような来館者数と貸出数で決まるのではない。団地の中心、団地の中にある図書館にこそあるべき新しい機能を付け加えるかを考えませんか。
- (H) 市が示した受託の明確な条件やガイドラインはない。今の仕組みを全部残してそれにプラスアルファでコミュニティの機能をつけるのではない。こうやると決めているわけではない。団地のど真ん中、商店街にある図書館をどうするかは、行政だけではできない。市民と一緒に考えていきたい。地域との連携についてはノウハウがある。団地の暮らしと密接につながり、持続可能な仕組みを考え出さなくてはいけない。書庫については、コミュニティづくりの中心に据えたらいいと考えているが、調査を踏まえて提案したい。UR に相談しながら図書館前のアーケードの空間を使えるようにすることを提案している。
- (鈴木) アーケードにテーブルや椅子を置いて利用できるようにすることは、会でも提案していた。(H:常設は難しいかもしれない)。今後途中経過を知らせてほしい。市民参加型のイベントとは？
- (H) 市民との対話の中から今後に反映できるようなもので図書館主催の企画を考えていきたい。子供向けのイベントを企画して、そこでアンケート調査して40代世代のニーズを掴みたい。
- (守谷) HさんはUR、コミュニティビルダー、ヤドカリとの繋がりがありますか？
- (H) はい。先日のイベントにも参加してみた。
- (鈴木) コミュニティビルダーは、おはなし会を5丁目集会所で行っており、現在書庫でおはなし会をできない図書館側がそこに協力という形で参加している。
- (青木) 30年以上鶴川地域の子育て支援に関わっている。2年前から中央公園の遊び場で乳幼児向けひろばを週1回行っているが、コロナ禍でも多い時は10組以上の親子が集まる。子育て中のお母さん達は楽しく交流し合える場を求めているが、図書館利用で小さい子が騒いだり迷惑かける事を気にして敷居が高く感じられる方もいるようだ。若いお母さん達が気楽に行かれる場所に書庫は活用できるのでは？そこを大事にして一緒に作っていこうという気持ちを皆で持ちたい。図書館運営協議会でみんなが鶴川地域の事を考えるという案はすごくいい。これから小中学校の統廃合などで子ども達にとっ

て不安定な状況も予想され、図書館が地域の子ども達やお母さん達の居場所・拠点になればと思うので、ぜひ一緒に作り上げていきたい。

書庫の掃除やります！

- (廣野) 市民協働型というのがよくわからない。ボランティアで市民が受付をしたり、貸し出しをするというような話を小耳にはさんだが、本当か？
- (図) 市民協働というのはボランティア的な部分もあるのは確かだが、図書館の形は多少変わるとしても、年間300日1日8時間以上、かなりの時間拘束されるので、ボランティアベースでは考えていない。予算の額が決まっており、一定の報酬を支払うことを前提として考えている。それを予算化するのに自分たちが頑張らなければならない。2023年度予算要求はもう始まっている。5ヶ年計画に事業費概算は記載されているが、必ずしも予算が確約されているわけではない。
- (廣野) 市民協働型運営には不安がある。市民が時給をもらって働くというようなことは受け入れにくい。図書館というベースを崩してほしくない。司書は不可欠です。住民にとっては、鶴川図書館は買い物、郵便局にいきながら利用できる図書館で、小中高生の活用性も高い。図書館がもっと適応性のあるところになっていくのでは。
- (篠田) Hさんの契約は3月までのはずだが、そのゴールはどこを考えているのか？つまり、運営団体を決めるところまでが契約になっているのか？もし、そうだとすれば、その行程、ロードマップはどのように考えているのか？これまで、どのような団体やキーパーソンと、どのようなヒヤリングや対話を行ってきたのか、差し障りのない範囲で伺えれば・・・。
- (H) 運営計画、改修計画を取りまとめる。組織の仕組み作りまでがゴールとなっている。陶山さんの協議会、商店会、自治会との対話の場も作る予定、これらを立ち上げる前に市民への説明会を今年度中に設けたい。数回行っていきたい。今までは、ヒヤリングが主で、対話の場は今回が初めて。今後ほかの団体とも対話の場を持ちたい。どこがどのように関わるかを決めるまで話を持っていけるか迄は今の段階では言えない。
- (図) 説明会と組織作りは同時並行で進める。2020年度の市のワークショップでは、終了後具体的に手を挙げてくれる人はなかった。できるだけオープンに。関わってもらえるところは関わってほしい。やってみたいというところがあれば、お願いしたい。多様なことを一つの団体に任せるのは難しい。いろいろな引出しをもっている人たちに集まってもらいたい。大好きの会はどうか？
- (鈴木) 図書館側がどこまでやるのか分からない状態では、どの団体でもなんとも言えない。
- (図) それはそれで、市側としては市民団体にこういうことをやってほしいというものを出さないと、手を挙げる方も判断できない。市側はどこまでするかを決めて、例えば、司書がやっていることまでやってというのか、それは市が面倒を見てくれるかなど、そのようなことをオープンにしたうえで、募りたい。
- (鈴木) 今日の話し合いは、ホームページや知恵の樹に報告を載せさせていただきたい。

関心のあるほかの方や団体にもどうなっているのか知らせる必要がある。活動に透明性を持っていただきたい。

(庄司) 書庫は、2020年以来閉めっぱなしで、今これほどひどい状態になってしまったことは驚いた。書庫の周りの覆いは、今外されており、南側、東側、北通路側の3面に出入り口と窓があって通気はいいはず。暖房、冷房もお話し会をやっているときは問題なかった。悪化を食い止めるよう、すぐにでも毎日換気して、薬も撒くなどして改善して欲しい。少し良くなった状態で掃除をしたい。

(図) 図書館には5回ほど書庫の活用を言ってきたが、調査中。結果がでて予算化されるのは12月になる。

(鈴木) 秋に書庫を使ってイベントをするなら、予算が出るのを待っていては間に合わない。窓を開けて換気をよくするなどして、作業をするなら、手伝うので声をかけてください。

4時10分、閉会。